

サルコペニア診療ガイドライン2017年版発刊記念 プレスセミナー開催！



2018年1月10日 TKP東京八重洲カンファレンスセンターで、日本サルコペニア・フレイル学会によるサルコペニア診療ガイドラインのプレスセミナーが開催されました。出版社含め20名程のメディア各社の参加がありました。日本サルコペニア・フレイル学会からは、荒井秀典先生、秋下雅弘先生、飯島勝矢先生、佐竹昭介先生、若林秀隆先生が参加されました。

荒井理事長からサルコペニアの定義と診断、病態、その問題点について、様々な研究データを用いてわかりやすく解説がなされました。その後、診療ガイドライン作成の背景について説明がなされ、ステートメントについて一つ一つ解説がありました。

会員の皆様もご存じのとおり、サルコペニアは2016年10月1日にICD-10のコード（M62.84）を取得しましたが、日本の診療報酬制度では未だに傷病名として認められていません。しかし、サルコペニアは高齢者のQOLを妨げることや、疾患との関連性が明らかになり、早期診断と予防は非常に重要となってきています。その状況を鑑み、日本サルコペニア・フレイル学会では、

昨年12月25日に世界初の診療ガイドラインを発刊しました。本学会ではアジアワーキンググループ（AWGS）の診断基準を採用し、簡便なスクリーニング方法として指輪っかテストを紹介しました。今後、サルコペニアが病名として認められ、保険診療で診断できるようになる可能性もあるようです。そのため、日常診療において広く本診療ガイドラインを利用することが提唱されました。

会場からは、医師向けの情報提供として具体的な摂取栄養量や運動処方についてどのように記載すれば良いかや、一般向けの栄養に関する書籍の中に、サルコペニアと栄養と運動、サルコペニアと癌の関連についての記載をしても良いのかといった質問の他に、薬の開発についての質疑応答がなされました。

最後に、飯島勝矢先生から、地域住民に向けての啓発活動として指輪っかテストの実施、オーラルフレイルの概念について、秋下雅弘先生からは、サルコペニア予防の観点から若年者への教育の重要性について報告されました。

今後、2018年3月にフレイルに関する診療ガイドがまとめられる予定とのことです。また、AWGSは近く診断基準の改訂予定であり、2022年にはサルコペニア診療ガイドラインも改訂予定です。

サルコペニア診療ガイドラインのステートメントについては現在学会HP (http://jssf.umin.jp/pdf/jssf_guideline.pdf) に掲載されておりますので、是非ご覧ください。

(広報委員 NTT東日本関東病院 上島順子)

